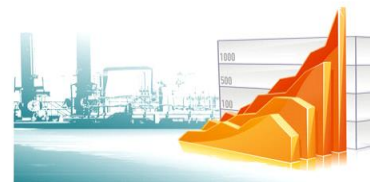


ぎふ経済レポート



平成29年7月分
岐阜県商工労働部

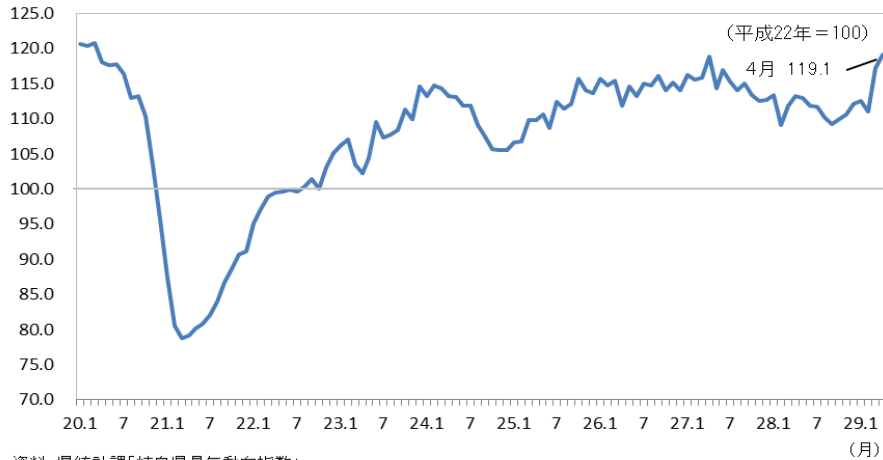
※企業等へのヒアリングは 7月24日～26日を中心に実施し、8月10日に作成。

景気動向

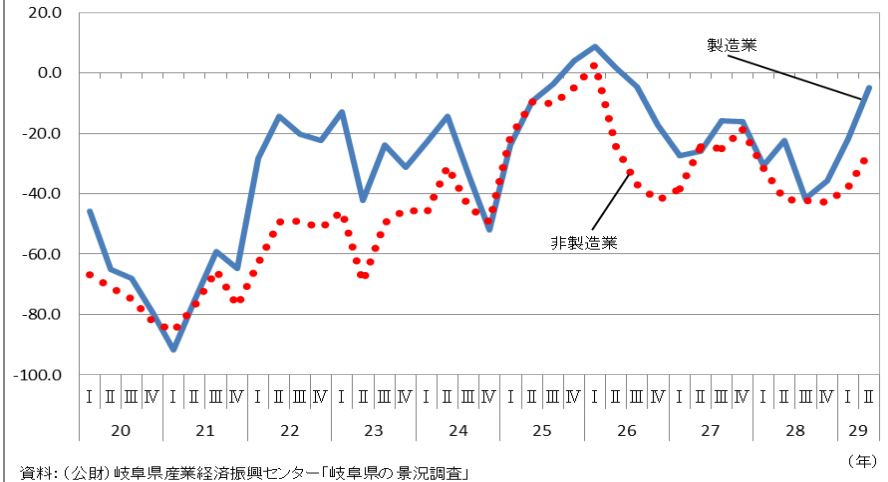
- 4月の景気動向指数(一致指数)は、119.1と前月比1.9ポイント改善した。
- 6月の県内中小企業の景況感(好転-悪化)は、マイナス20と前月比▲1ポイントと若干悪化した。

- 平成29年4-6月期の景況感(増加-減少)は、製造業17.1ポイント、非製造業11.5ポイントの改善となる。
- 売上高DIは、製造業が14.2ポイント改善、非製造業においても8.5ポイント改善となった。

岐阜県景気動向指数(一致指数)の推移



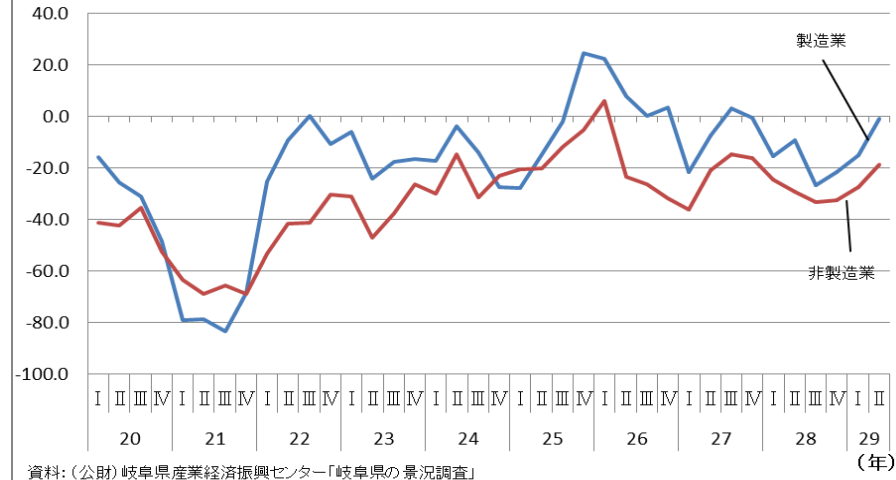
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



県内中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

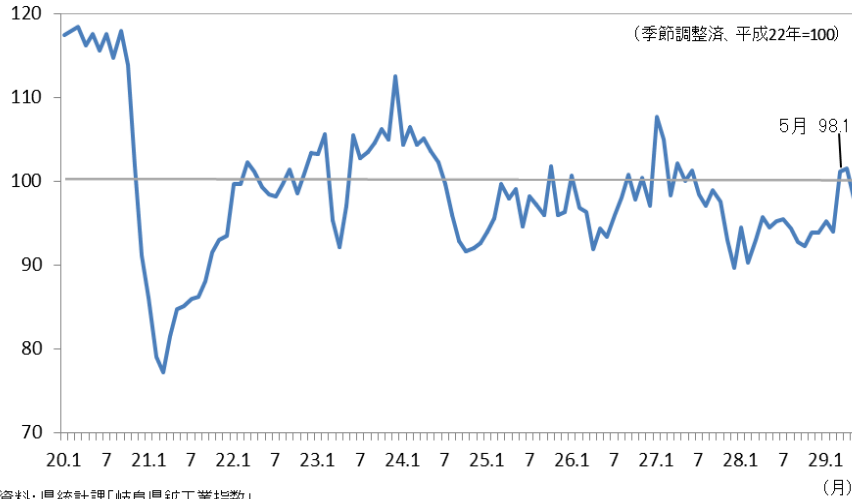


製造業

- 5月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比3.4ポイント減少し、98.1となる。
- 4月は活発だった自動車の生産が落ち着いた影響とみられ、3ヶ月ぶりに低下した。

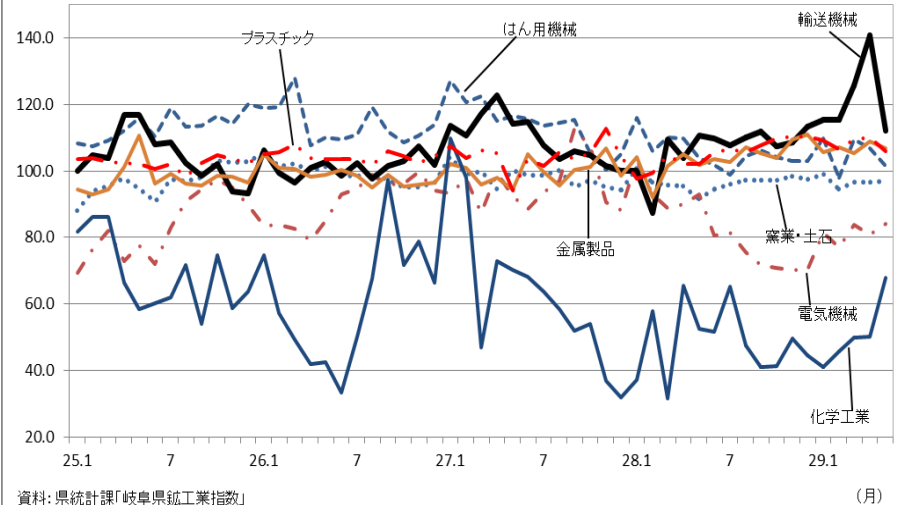
- 5月の主な産業の指数は、電気機械、窯業・土石、化学工業で前月比上昇。
- 好調であった輸送用機械は、反動で生産を抑制。28.8ポイント低下し112.1となった。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



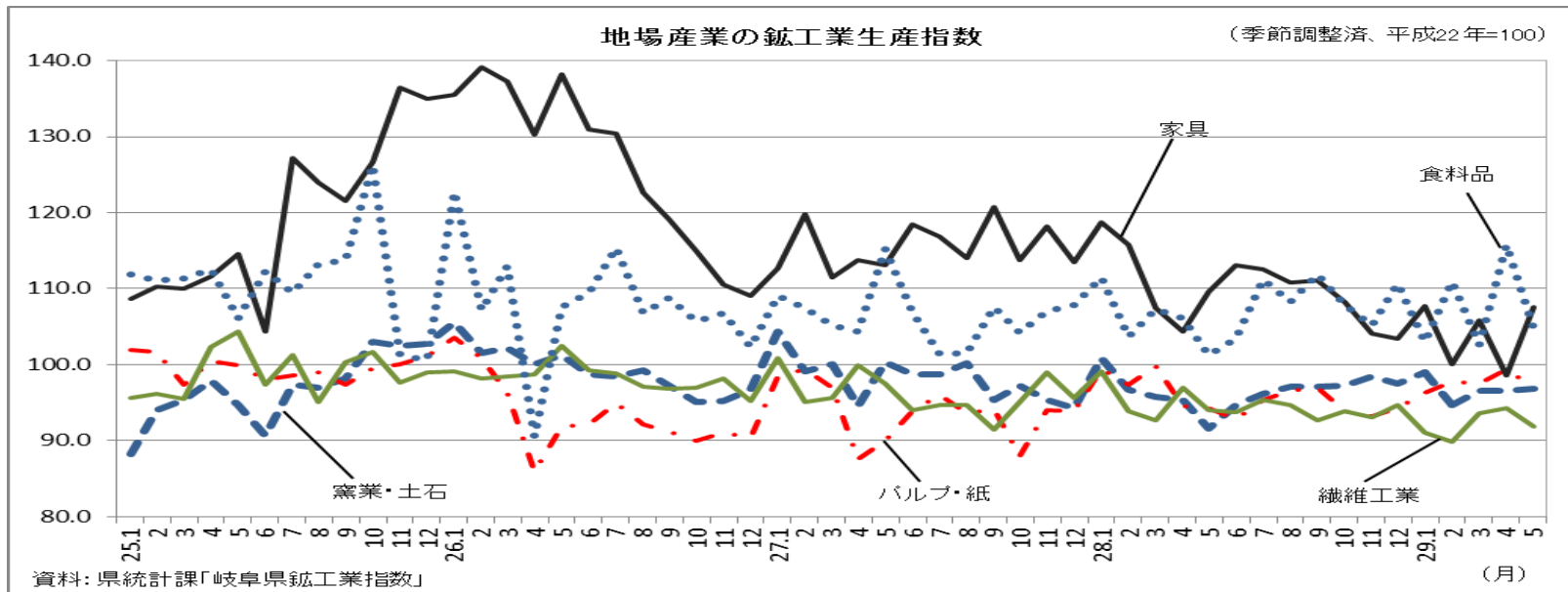
現場の動き

- ◆6月の売上は自動車関連が4.8%減少、油圧・建機関連が27.1%増加し、全体で5.2%増。(輸送用機械)
- ◆売上高は前月比9.6%増加。自動車向けの樹脂部品や、パソコン向けの基板加工の受注増加が全体の売上を押し上げた。一部パート社員のベアを今月実施した。(プラスチック)
- ◆今期決算は前期を上回った。今年に入り、自動車関係を中心に大口の設備投資も出始めている。このような状況が順調に続けばよいが、楽観視はしていない。海外の取引先からの受注は堅調。(電気機械製造)
- ◆大きな変化はないが、自動車・建機ともに受注が増加傾向。建機を中心に今後も増加見通し。(非鉄金属)
- ◆売上は対前年同月比14.8%増加。中国の地場の建機メーカー向け部品の輸出拡大が続いている。さらに国内建機メーカーも中国工場での生産が拡大しており、建機部品が非常に好調。(生産用機械)
- ◆今年の5月以降、受注については若干上向きになっているが、前年同月比では依然下回っている。(はん用機械)

製造業-2

○5月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、家具が前月比9ポイント増加し107.5、窯業・土石が同0.3ポイント増加し96.8となった。

○一方で食料品が同11.0ポイント、繊維が同2.4ポイント、パルプ紙が2.4ポイント低下するなど、地場産業の生産は厳しい状況が続いている。

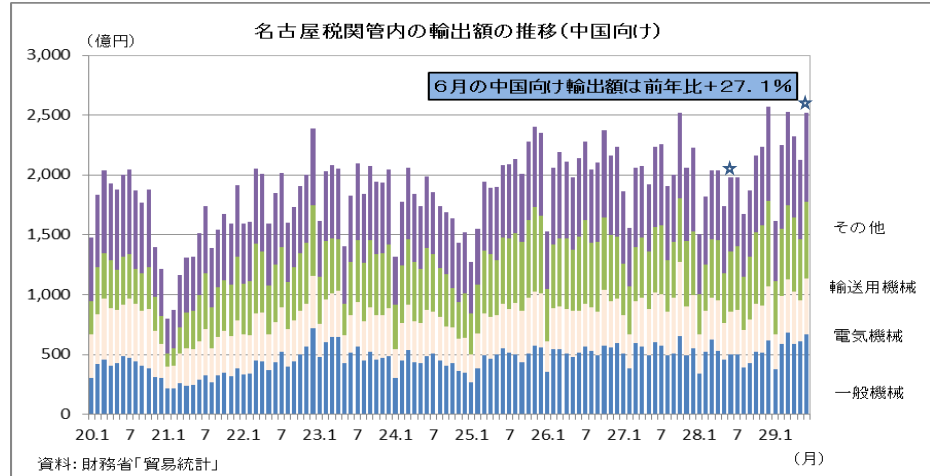
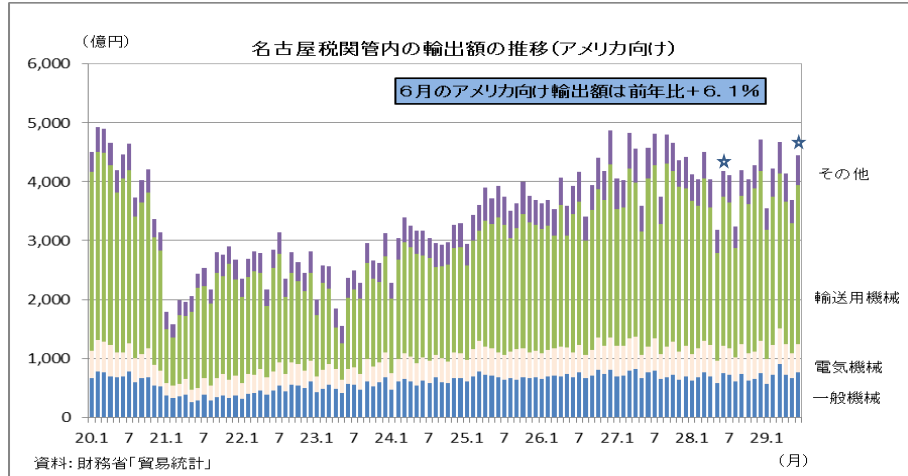
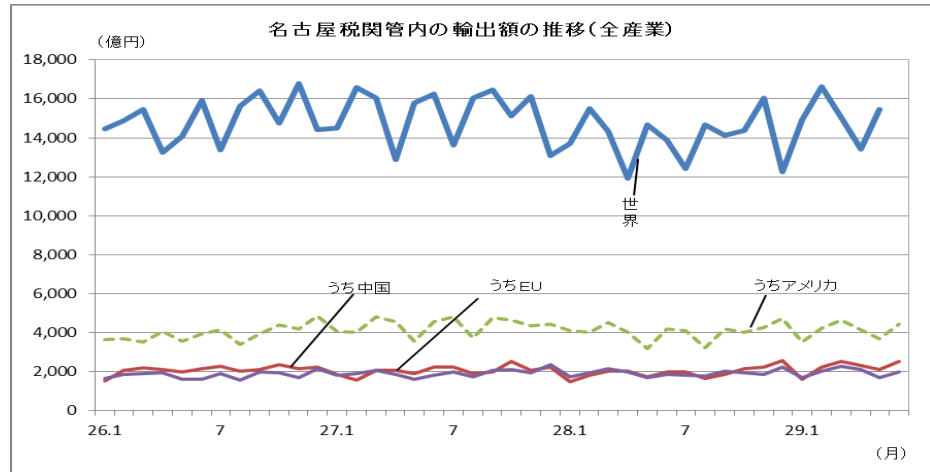
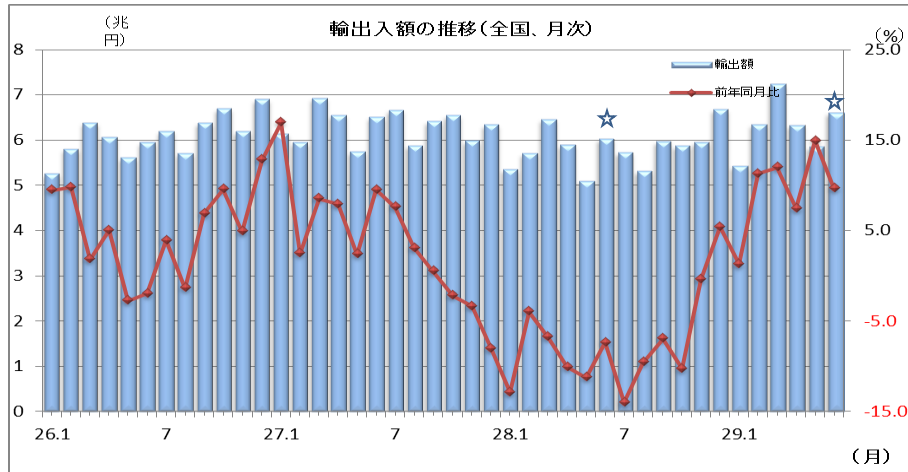


現場の動き

- ◆景気は悪い。百貨店売上が減少しており、影響が大きい。廃業に伴い組合員の減少が続いている。(アパレル)
- ◆食器需要の多様化により業況は厳しい状況。GW以降は動きが鈍化している。輸出は好調な様子。(陶磁器)
- ◆売上は前年と同じくらい。受注は前年より多いが製造の人員不足により出荷が滞っている状況。(刃物)
- ◆業況はさらに落ち込んでおり、厳しい状態が続いている。特に食品系の紙(高級菓子の箱張りなど)の発注に、1ヶ月に一回が2ヶ月に一回となったりするなどの減少傾向が見られる。(紙業)
- ◆売上は昨年並み。2月から中国への輸出を本格的に始めた。まだこれからだが、今後に期待したい。(木工)
- ◆売上は増加傾向にある。(食料品)

輸 出(名古屋税関管内)

- 6月の輸出額(全国)は、6兆6,084億円と前年同月比9.7%増加し、7ヶ月連続で増加となった。
- 6月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆5,456億円で、全産業において前年同月比で増加した結果、全体で同5.3ポイント増加し、5ヶ月連続して前年を上回る。
- うちアメリカ向けは、全産業で増加し、前年同月比6.1%増加したものの伸びは鈍化している。
- うち中国向けは、5ヶ月連続で全産業で増加し、全体で同27.1%増加。一般機械35.0%増、電気機械28.1%増、輸送用機械27.7%増と引き続き高い伸びを示している。



為替・原油価格等の動向による影響について

- ◆鋼材は値上げの要請がきている。ユーザー(顧客)側で値上げ分の一部をカバーしてもらう予定。(非鉄金属)
- ◆ガソリン、LNG価格は落ち着いたままで、値下げ傾向もあり助かっている。(輸送用機械)
- ◆燃料費は安定しているが、木くずが物流の中で足りなくなっており、集材に苦慮している。(製材)
- ◆原材料が高騰しており、価格転嫁できないのが現状。(刃物)
- ◆原油価格の上昇により、材料費は上昇している。(紙業)

日欧EPAによる影響について

- ◆自動車部品の関税が撤廃されれば増産につながる可能性もあり、期待している。(輸送用機械ほか)
- ◆EUに輸出している関係から、関税等について恩恵を受ける可能性がある。(刃物)
- ◆前向きに捉えている企業もある。積極的に販路拡大を検討しているところもあり、ジェトロ等と支援していく。(金融)
- ◆厳しくなる。PRをもっと拡充し対抗する必要がある。日本にはたくさんの木材があるのにヨーロッパからわざわざ持ってくる必要があるのかを消費者に理解してもらうことが重要。危惧するより啓蒙が必要。(製材)

働き方改革への取組みについて

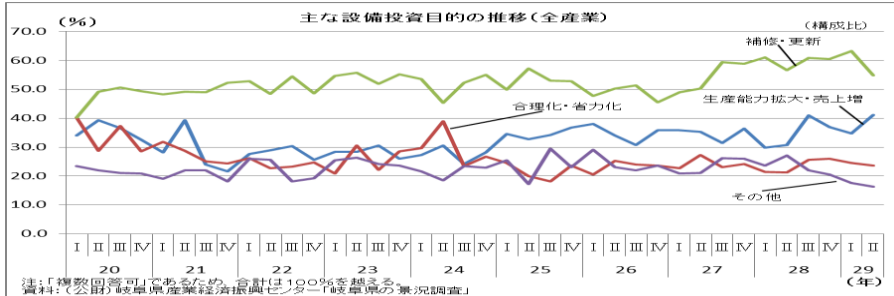
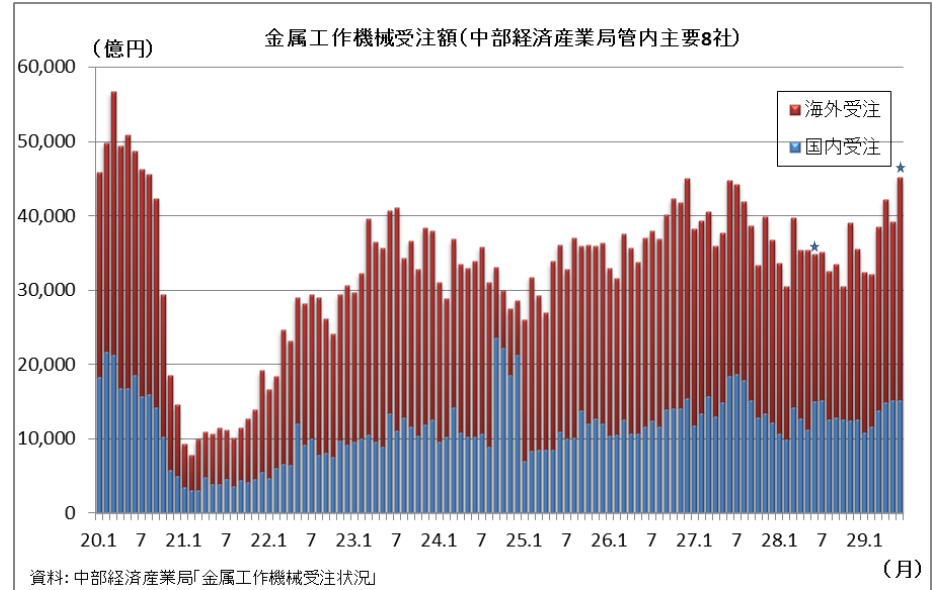
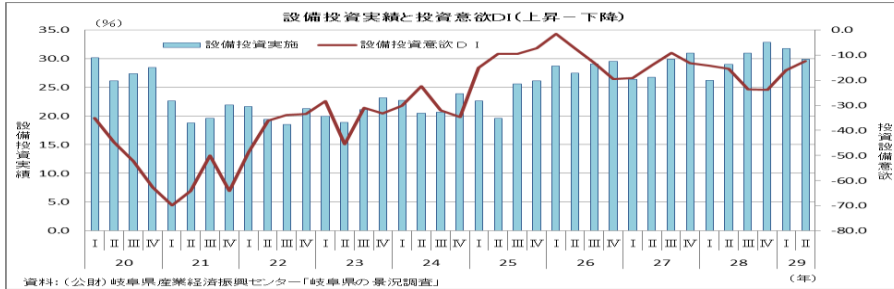
- ◆労使で働き方改革について議論した際、勤務終了から翌日の出勤までの「インターバル」を11時間以上取るよう話があり、22時以降の残業はできる限り無くすよう管理職に指示が出ている。(輸送用機械)
- ◆設備の速度を速めたりして生産性を上げたり、極力負担が無いようなシフトを組んだりしている。(非鉄金属)
- ◆半日休暇の取得回数撤廃により、育児中の女性の多くが取得できるようになった。(輸送用機械)
- ◆働き方改革は業界としても大きな問題であり、今後企業が存続していくために何をすべきか議論を深める必要がある。
- ◆処遇改善を含め、若年者の目に留まるよう改革を進めていく必要性を感じている。(以上、建設)

業界トピックス・トレンドについて

- ◆ダイキャスト部品は自動車のエンジン部品として使われているが、今後はエンジン以外への部品にも使えないか業界として模索する動きが出てきている。(輸送用機械)
- ◆ヒアリ対策については暑い倉庫内であっても長袖を着用することを徹底したり、コンテナの状態把握を徹底している。(運輸業)
- ◆国有林野事業の入札は競争が厳しく、割の合う金額では落札できない。(森林組合)

設備投資

- 平成29年4－6月期の設備投資実績は1.9ポイント減少したものの、設備投資意欲DIは3.6ポイント増加と設備投資への意欲は改善している。目的別では、「生産能力拡大・売上増」が6.4ポイント増加しており、好調な業績を受け、さらに生産能力の拡大に舵を切っている様子が伺える。
- 平成29年6月の金属工作機械受注額は、国内受注は前年同月比+0.6%と3ヶ月連続で増加し、海外受注は北米、中国、インドが好調で同51.5%増加と2ヶ月ぶりに増加した。



現場の動き

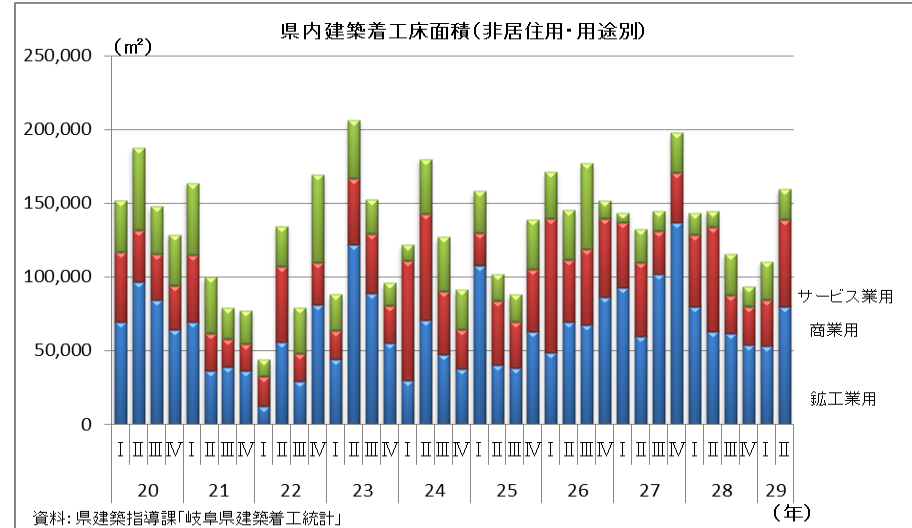
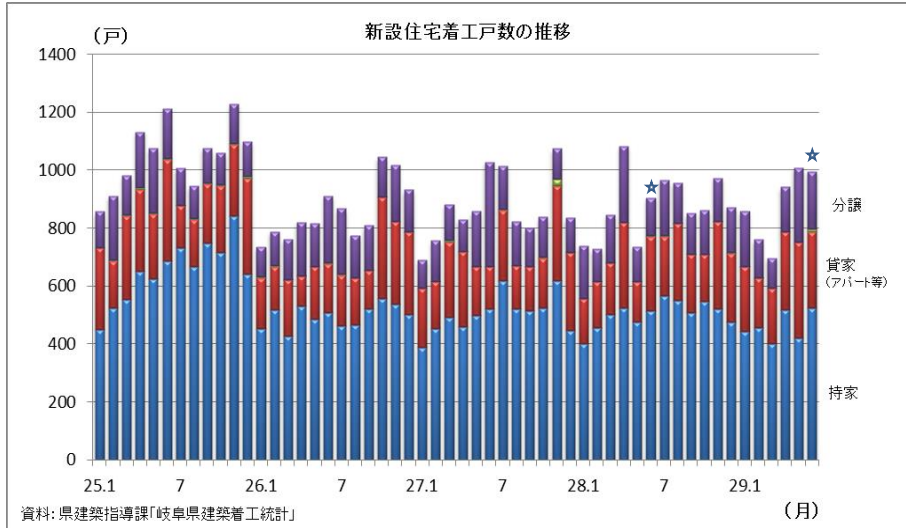
- ◆常に最新鋭の機械を導入し、他社との差別化を図っているため、機械の設備投資は計画的に行っている。
- ◆今年秋をめどに金型と関連設備で数億円単位の設備投資を行う予定。(以上、輸送用機械)
- ◆同じ工業団地も含めて周辺に良い土地があれば工場の増設を検討したい。(電気機械製造)
- ◆例年に比べて、設備投資は範囲を広げ、投資額も数千万円単位から億単位としている。(非鉄金属製造)
- ◆分業制の下請が無くなっていくので、内製化のための機械導入を考えている。(刃物)
- ◆新車を購入することは難しいため、年中良い中古車を探しているが、中古車市場も高騰しており難しい。(運送)
- ◆今後の発注見通しを踏まえ、プラント等大規模な更新を検討している。(建設)
- ◆今後はロボットのほかに、自動化設備の導入に積極的に取り組んでいく予定。(食品)

住宅・建築投資

○6月の住宅着工戸数は、前年同月比10.1ポイント増加し、2ヶ月連続で増加した。

○持ち家が前年同月比1.7%増と、4ヶ月ぶりに増加に転じたことに加え、分譲が同50.8%増加と堅調に推移している。

○平成29年4-6月期の建築着工床面積は、前年同月比で鉱工業用11.7%、サービス業用7.0%それぞれ増加。商業用が同8.5%減少したものの、全体では同10.2%増加し、4期ぶりに増加に転じた。

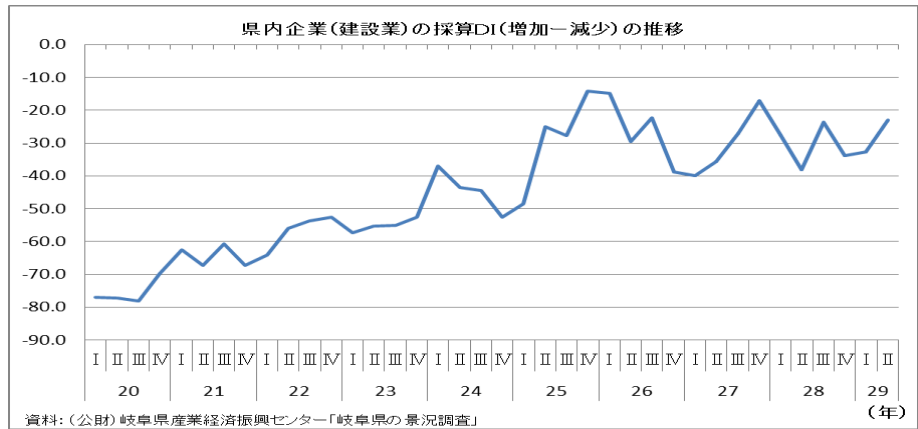
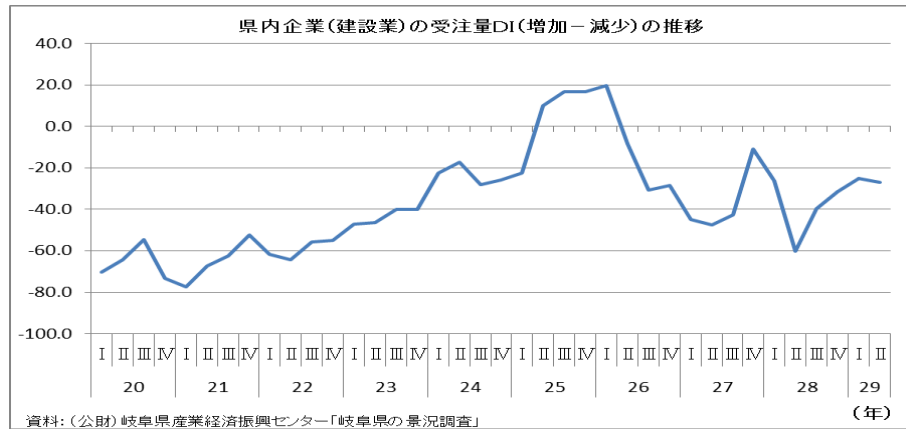
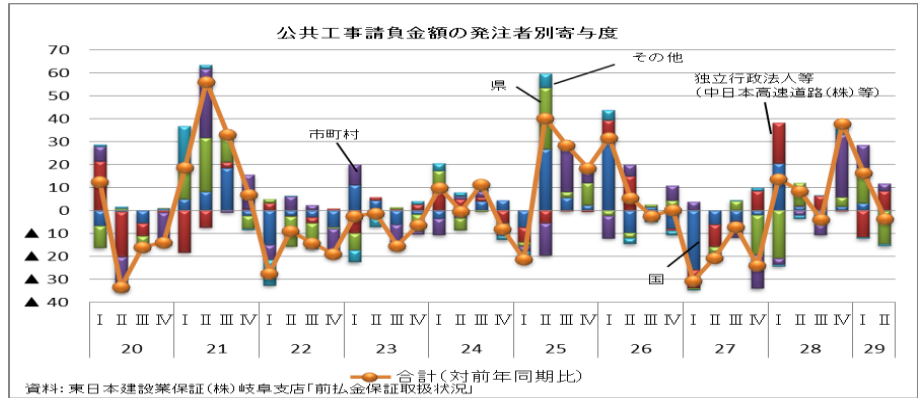
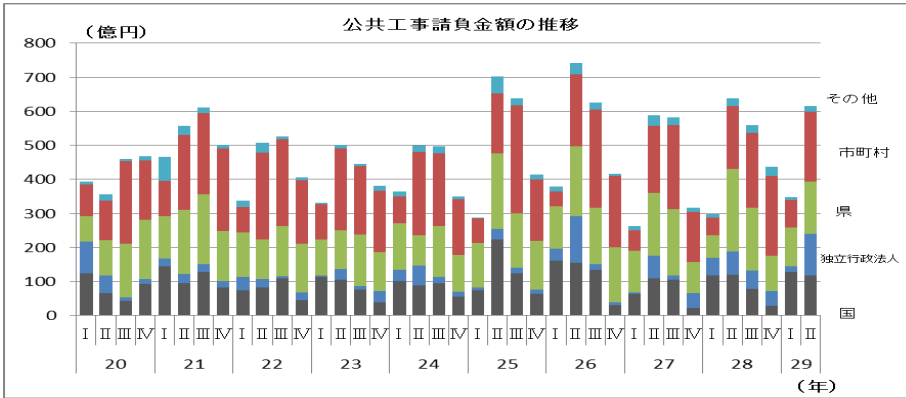


現場の動き

- ◆県内の展示場の集客、受注は前月並みで良くない。県内のリフォームの受注も悪くなってきた。(住宅関連)
- ◆売上は前年同月比5~10%減少。先が見えず秋以降が不安。このままではやめないといけない。(木材加工)
- ◆売上は対前年比95%。今後の見通しは厳しくなるかもしれない。秋から入札が出てくると思うので、それに期待しているが、岐阜県も公共施設の木造化について条例に記載してほしい。(製材)
- ◆梅雨時期のため、民間事業者からの出荷量は依然少ない状況が続いていると感じている。(木材市場)
- ◆山側は機械化が進んでいるが、A材としては皮剥けや枝払いが悪いなど、品質の悪いものが多い。製材業では川下が喜んでもらえる製品を作るよう心掛けているので、山側もどのように使用されるか理解し、きれいな造材を望む。
- ◆現在、柱は105角が主流。木が太くなってきている中、製材や山側に厳しい。(以上、製材)
- ◆生産量自体は例年並みであるが、需要が良好であり、工場側からすると少なく感じられるのでは。(森林組合)

公共工事

- 平成29年4－6月期の発注者別の公共工事請負金額については、独立行政法人が前年同月比プラス83.2%と大幅に増加し、市町村も同10.8%増加した。
- 県内建設業の受注量DIは前期比1.8ポイント悪化したものの、同採算DIは9.9ポイント改善した。

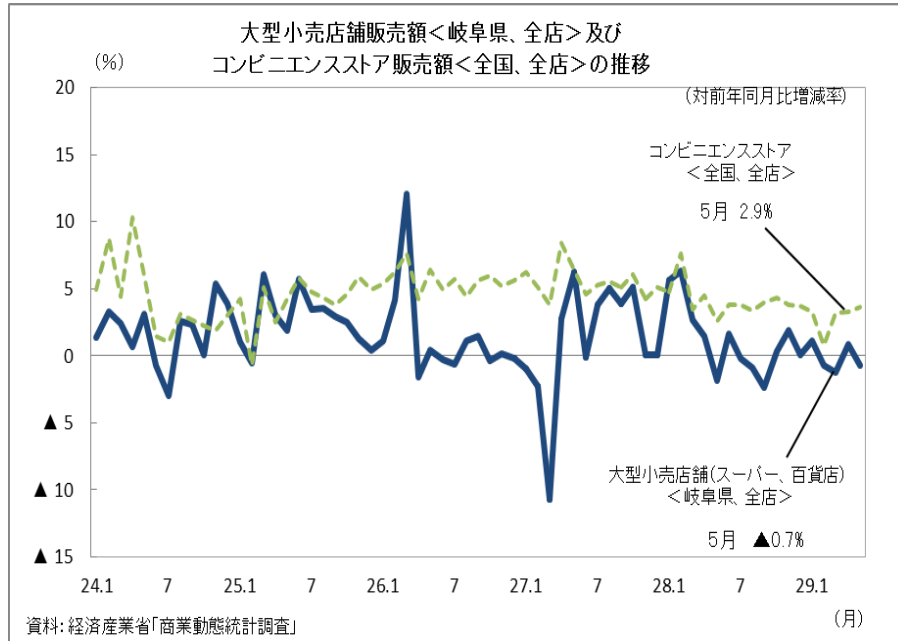


現場の動き

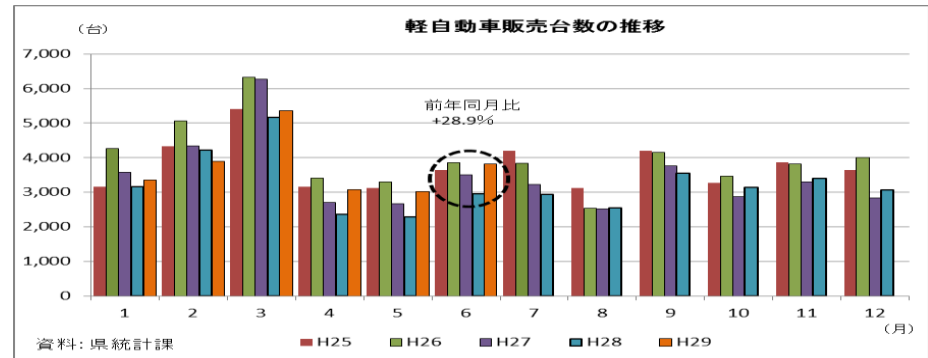
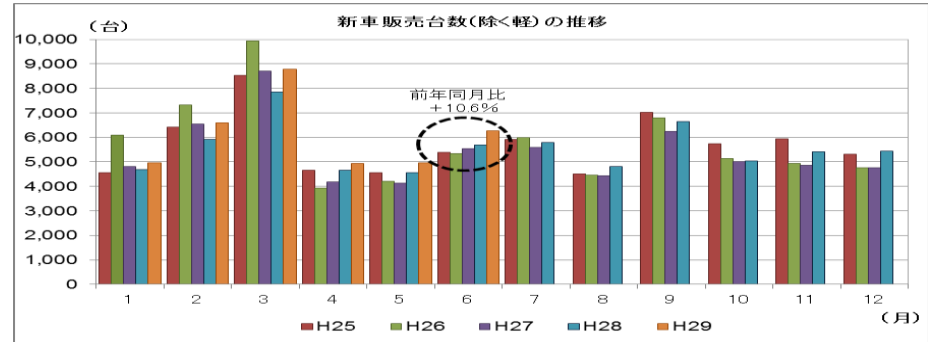
- ◆7月中旬に受注が増え、前年並みの水準で推移している。
- ◆新卒の雇用が難しい。内定は出すが雇用に至らない。また、技術者は大手へ、技能者は高齢化が進んでいる。
- ◆今年度、ボーナス支給率を上げた企業がある。
- ◆県の試行工事(ICT、週休2日制)の内容やそこから見えてくる課題(方法・経費)を注視したい。(以上、建設業者)

個人消費(流通・小売)

- 5月の大型小売店販売額は、前年同月比0.7ポイント減少し、2ヶ月ぶりに減少した。
- コンビニエンスストアの5月販売額は、前年同月比2.9%の増加と、引き続き堅調な販売額の伸びを示している。



- 6月の新車販売(除く軽)は、前年同月比10.6ポイント増加し、15ヶ月連続で増加した。
- 軽自動車は、同28.9ポイント増加と4月以降大幅な伸びを見せている。



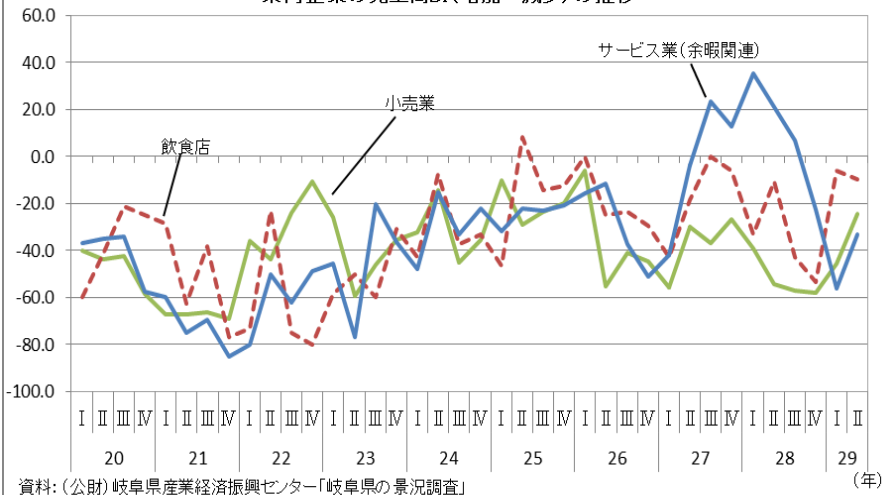
現場の動き

- ◆7月の売上は前年同期比6%増加。来客は5%増加。新車販売は新車種投入の効果も落ち着き前年並み。映画は話題作が多く同160%。昨年はビッグヒットがあったため来月後半以降から落ち込む見込み。(大型商業施設)
- ◆7月の売上高は前年同月比99.3%と若干減少。来店客数は同98.3%。デザートが好調。(コンビニ)
- ◆売上は前年同月比102%、客数は同91%、客単価は12,000円。エアコンが台数115%・金額110%、テレビが台数・金額ともに110%と好調。購入後工事にすぐに入れない状況。設置業者を増やして対応しているが、それでも一週間程度待ちになっている。暑さが長く続くため、エアコンの需要には期待している。(家電)

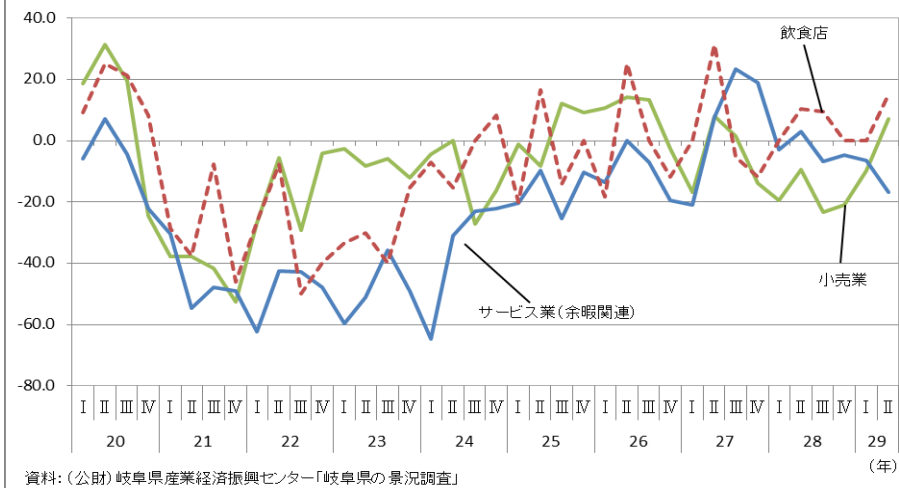
個人消費(流通・小売)ー2

○平成29年4ー6月期の売上高DIは、小売業で21.0ポイント、サービス業で22.9ポイント改善。飲食店については4.1ポイント悪化した。同じく販売価格DIについては飲食店で15.0ポイント、小売業で16.7ポイント改善したが、サービス業は10.2ポイントの悪化となる。

県内企業の売上高DI(増加ー減少)の推移



県内企業の製品販売価格DI(上昇ー下降)の推移



現場の動き

- ◆入館者数は前年同月比で100%を上回る。館全体売上についても2ヶ月連続で前年同月を上回る見込み。
- ◆飲食、物販、ファッションは前年同月比100%を上回るが、生鮮食品、サービスは下回る。(以上、アクティブG)
- ◆7月は飲食店が好調。物販店はあまり良くない。新規開店で復活したアイスクリーム店は人が並ぶほど好調。
- ◆天気が不安定なせい、楽天地通りを歩くお客が激減。花火大会に岐阜みやげを投入する予定。(以上、柳ヶ瀬商店街)
- ◆商店街を歩いている人は少ない。バスの観光客は和菓子店など土産の目的店舗だけ行くというパターンが多い。
- ◆売上は婦人服店が前年同月比75%、和菓子店が同95%。メディア露出が少ないためか。(以上、大垣市商店街)
- ◆中国人向け電子マネー導入により、中国人観光客の反応がいい。
- ◆売上は、陶器・土産店が前年同月比95%、衣料品店は同108%。(以上、高山市商店街)
- ◆酒類販売店の売上は同100%。お中元の季節だが年々減少している。まちゼミが始まり、来店客が増えている。
- ◆子供服店の売上は前年同月比100%。夏休みに入り少しは動き出している。(以上、多治見市商店街)

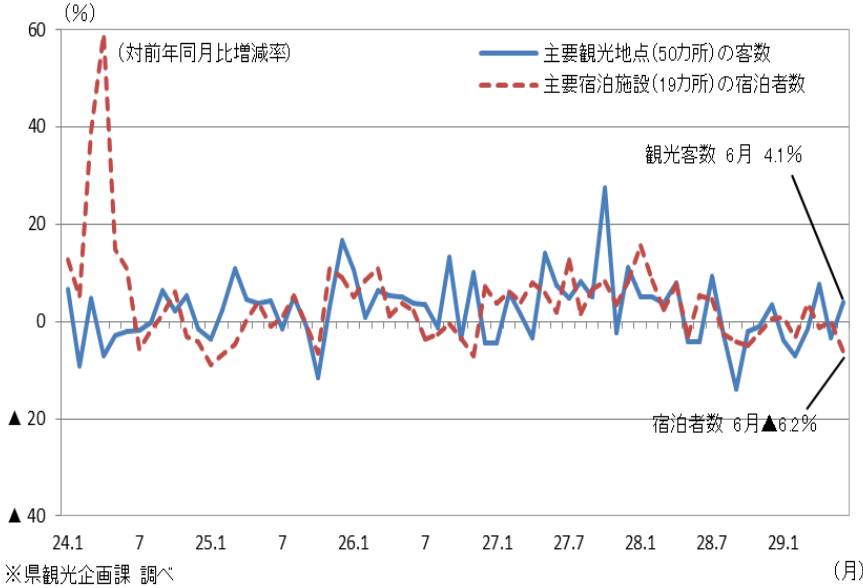
観光

○主要観光地における6月の観光客数は、前年同月比4.1%の増と2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。

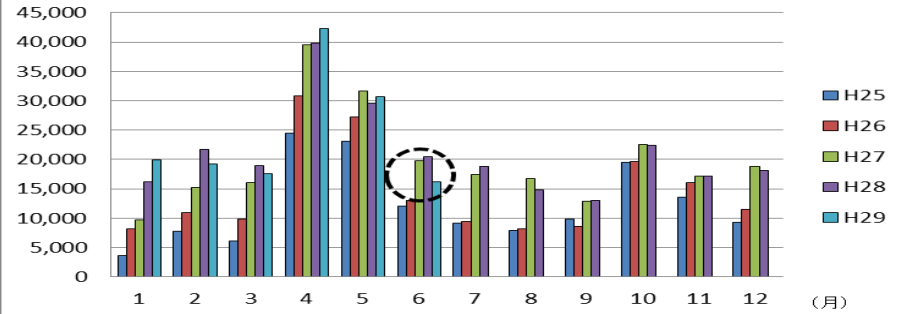
○一方、主要宿泊施設における宿泊者数は、同6.2%の減と2ヶ月ぶりに前年を下回った。

○6月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比の増減率では20.8%減と大幅に減少し、3ヶ月ぶりに前年を下回った。

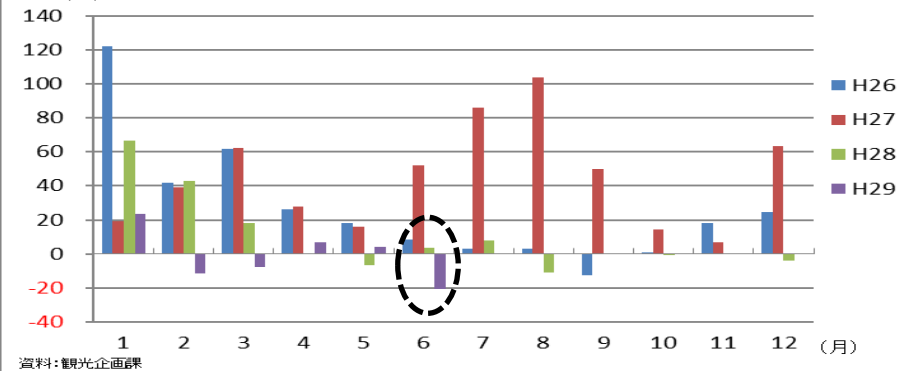
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客数(対前年比推移)



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)

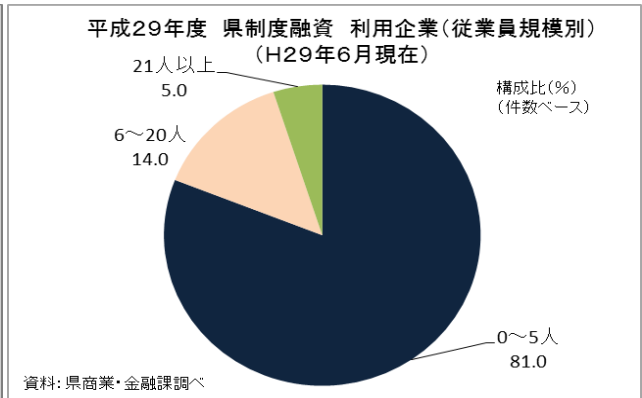
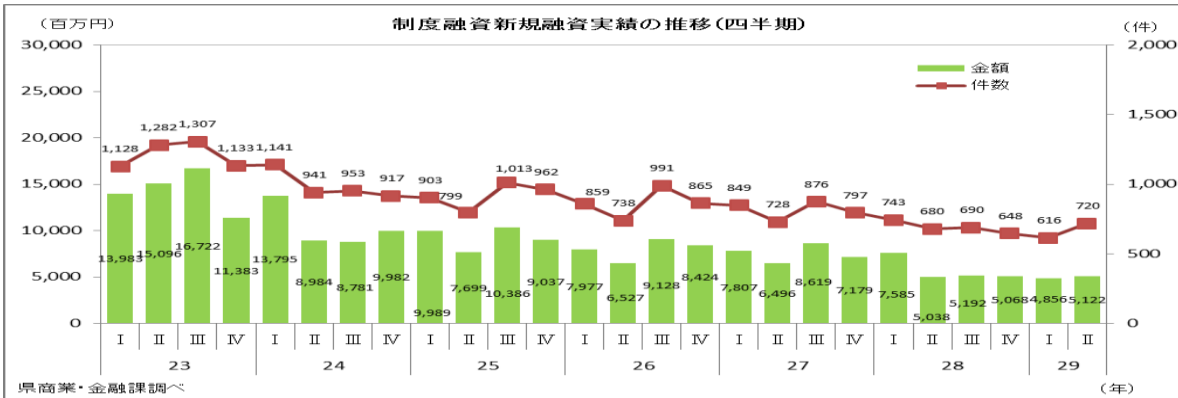
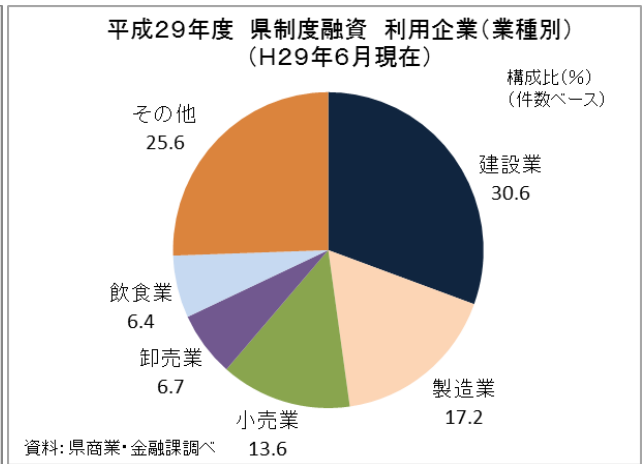
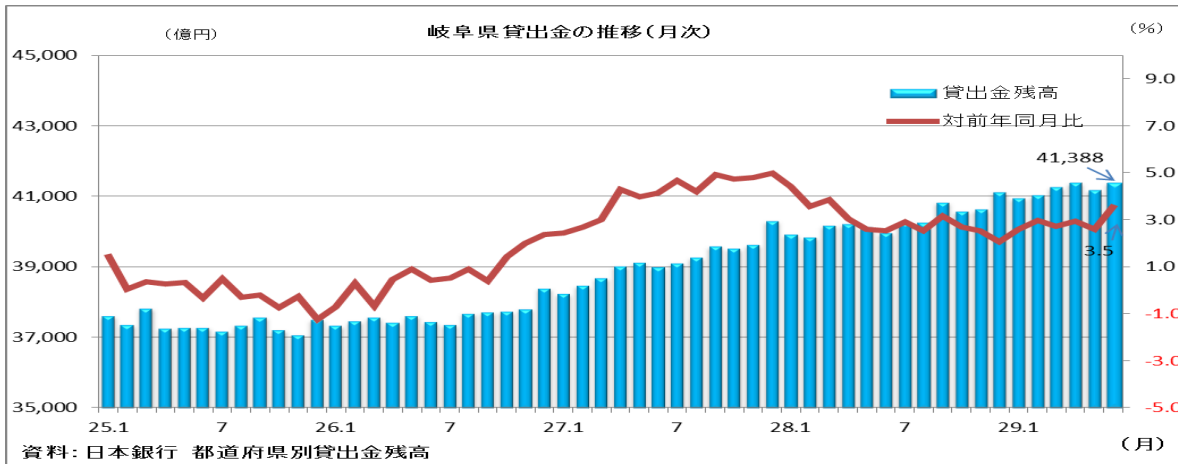


現場の動き

- ◆ラマダン明けの6月下旬にインドネシアからの宿泊客が大きく増加した。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆日本人一般客がよく動き出している。(大垣市内の宿泊施設)
- ◆香港からのお客様が減少するなど、インバウンドが前年の4分の1に減少した。(恵那市内の宿泊施設)
- ◆今年度に入り、インバウンドの伸びは止まりかけている。(高山市内の宿泊施設)
- ◆インバウンドの宿泊が少なかったため売上高が減少したが、客単価のよい国内旅客の割合が大きくなり客単価が高くなった。(高山市内の宿泊施設)
- ◆台湾からの団体客が減少した。(下呂市内の宿泊施設)

資金繰り

- 6月の岐阜県貸出金残高は、4兆1,388億円で前年同月比3.5%増と堅調に推移。
- 6月の制度融資実績は、金額が2,198百万円で同0.9%増加。件数も304件と同9.0%増加。
- 四半期別(平成29年4-6月期)では、金額が5,122百万円で平成25年7-9期以来15期ぶりに前年同期比で増加。件数は720件で同じく14期ぶりに増加するなど、制度融資の需要が高まっている。

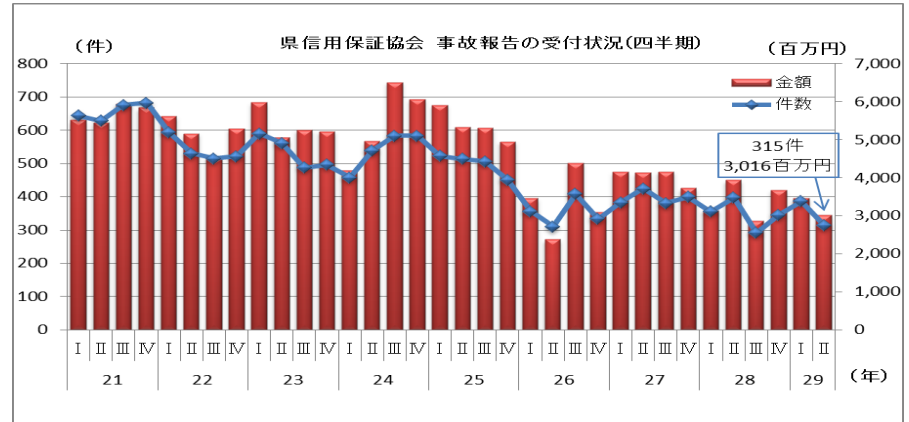
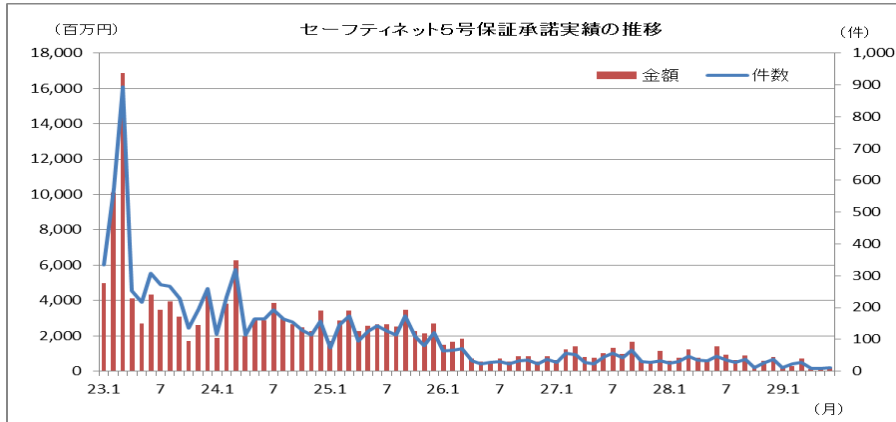
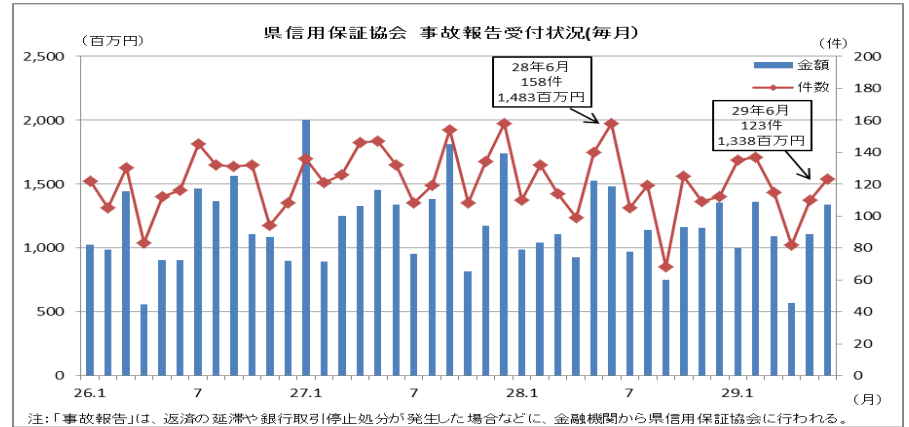
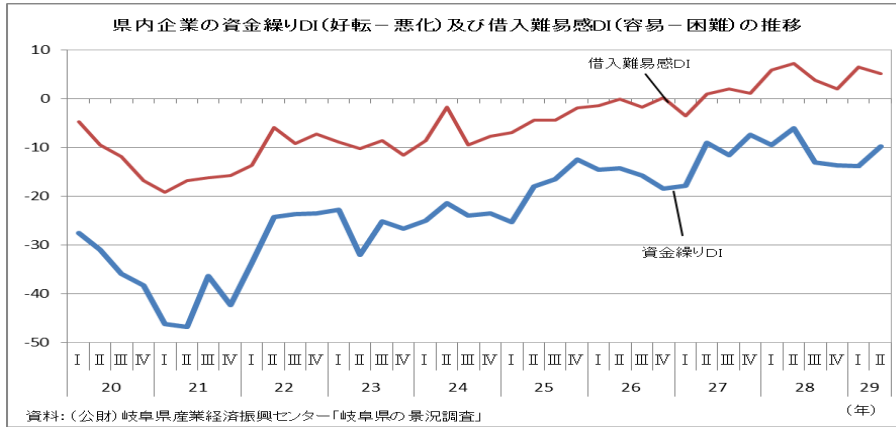


現場の動き

- ◆融資の重点方針で成長産業を積極的にと取り組んでいるが、航空機産業等が今一つで進みにくい状況。
- ◆資金は借りやすい状況にある。貸出先が少なく積極的な条件提案に動いている。(以上、金融)

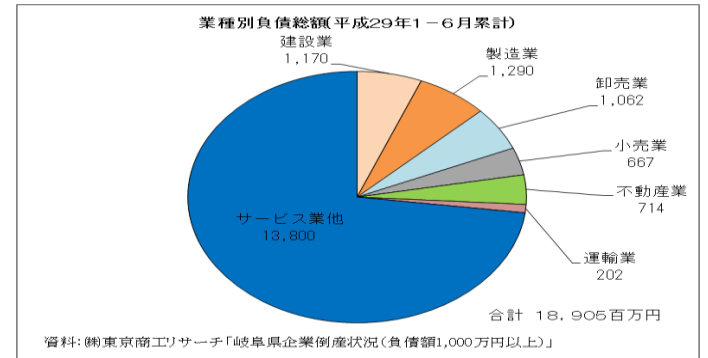
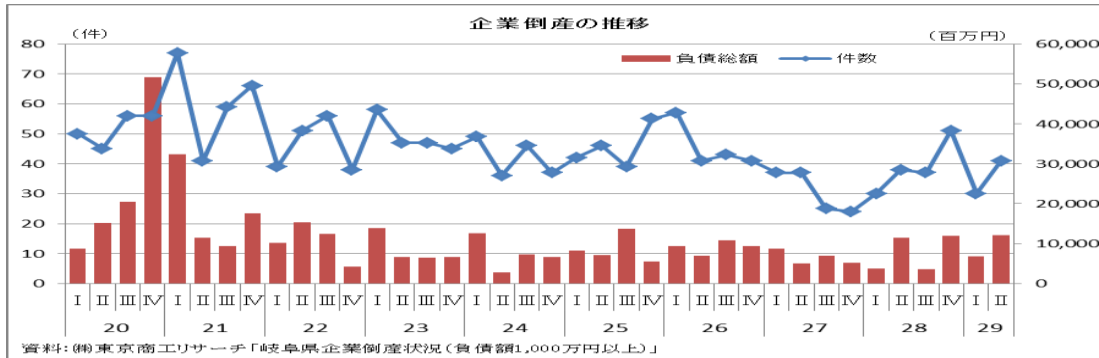
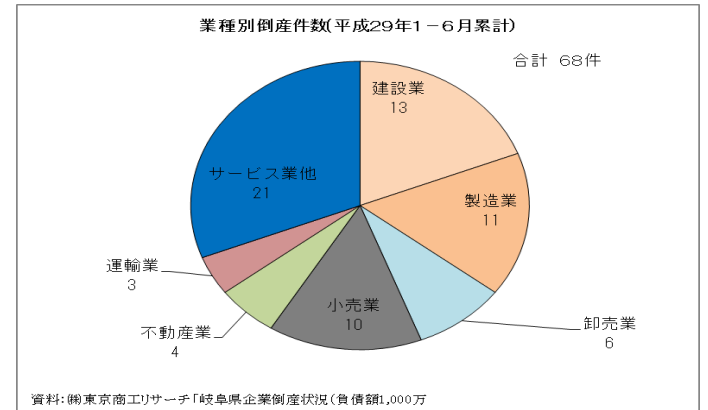
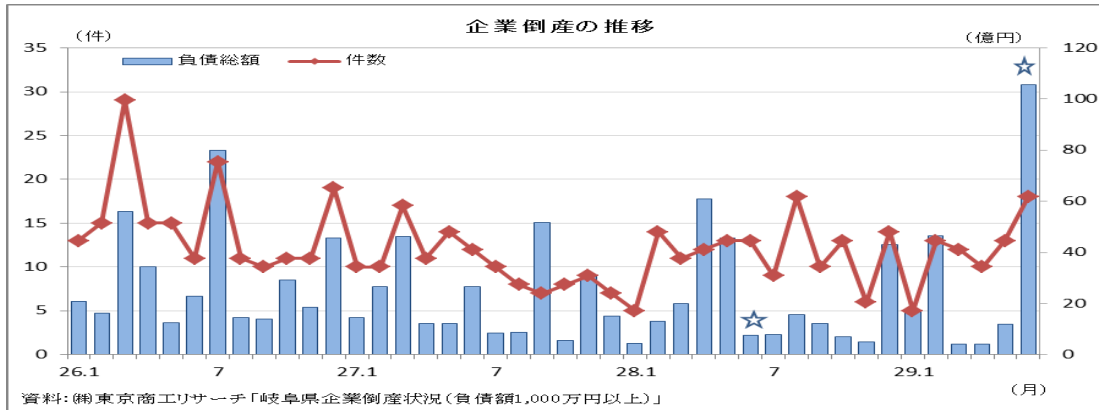
資金繰りー2

- 県内企業の平成29年4－6月期の借入難易感DIは、5.2ポイントと前期比1.3ポイント減少した。一方で資金繰りDIについては、マイナス9.8ポイントだが、前期比4.0ポイント改善した。
- セーフティネット5号保証承諾実績は、件数が前年同月比78.7%減少し10件。金額が同87.1%減少し182百万円と、経済状態が落ち着く中で、利用は低調に推移している。
- 平成29年6月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数が123件で前年同月比▲22.2%と3ヶ月連続で減少。金額は1,338百万円で同▲9.7%と4ヶ月連続で減少した。
- 同じく平成29年4－6月期の事故報告状況受付状況は、件数が前年同期比で20.7%減少し315件、金額が同23.4%減少し3,016百万円と2期ぶりに減少した。



倒産

○6月の倒産件数は前年同月比+5件の18件。18件を超えるのは平成26年12月以来2年半ぶり。
 医療法人の大口倒産の影響で負債総額は同1,314%増加し105億66百万円と大幅に増加。
 ○本県において単月で負債総額100億円を超えるのは、平成25年7月以来3年11ヶ月ぶりとなる。



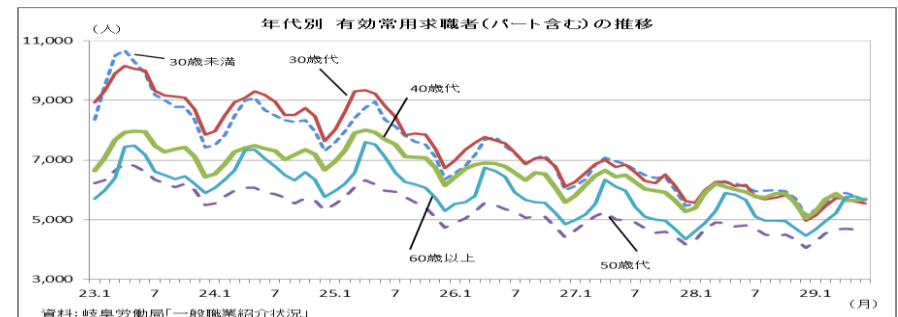
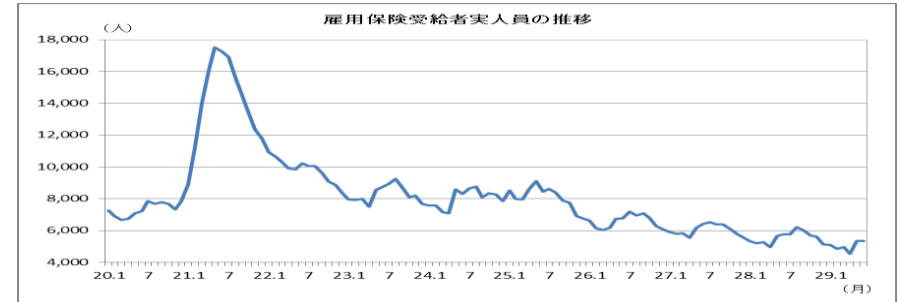
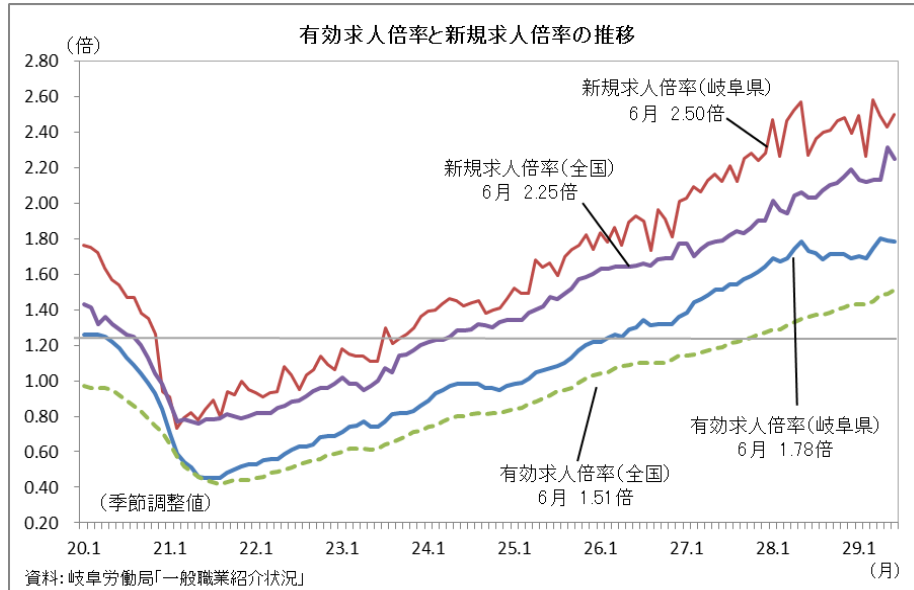
専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆負債総額100億円超過は平成25年7月以来およそ4年ぶり、倒産件数が単月18件を上回ったのは平成26年12月以来2年半ぶりのことである。
- ◆大型倒産の発生により、負債総額は大幅に増加したものの、依然として、中小零細企業の倒産が大勢を占めている。これは、経営改善の遅れによる「息切れ倒産」が要因であり、大手資本系列企業との競争激化の中、企業再生道半ばで厳しい選択を迫られるケースなど、引き続き一定数の倒産発生が予測される。

雇用

- 6月の有効求人倍率は1.78倍と前月より0.01ポイント下降。全国第8位となる。
- 6月の新規求人倍率は2.50倍と前月より0.07ポイント上昇した。

- 6月の雇用保険受給者人員は前年同月比7.1%減と48ヶ月連続で前年を下回る。
- 年代別有効常用求職者では、60歳以上の高齢者の求職が増加傾向にある。

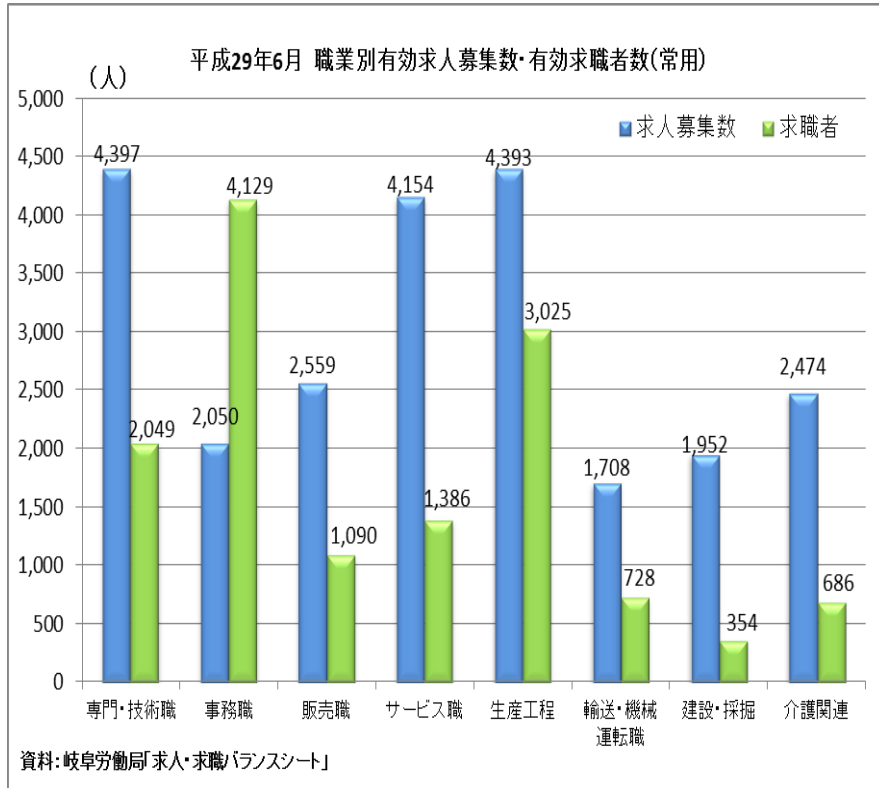


現場の動き

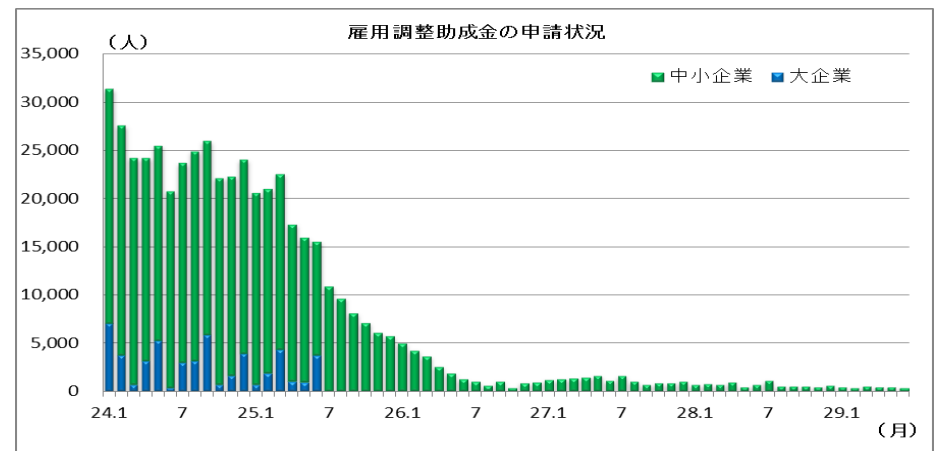
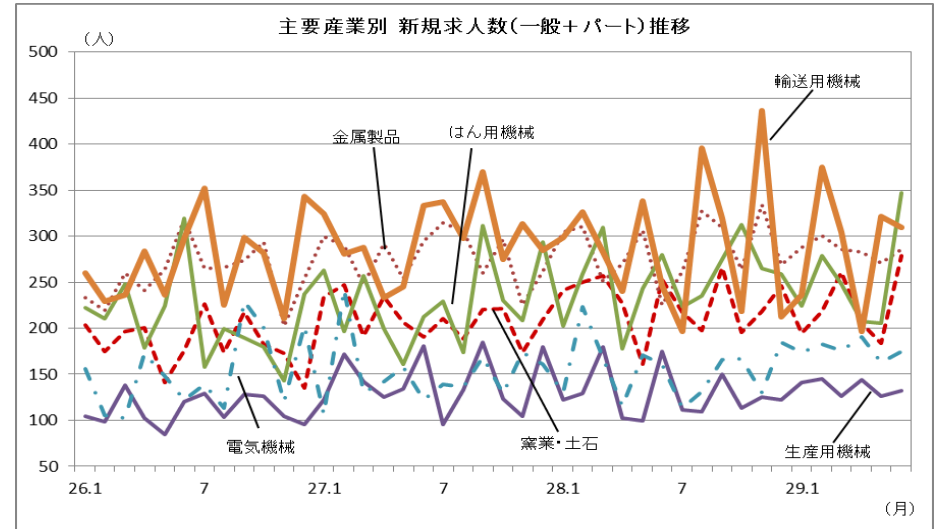
- ◆ハローワーク経由の期間従業員の採用が困難なため、社員からの紹介制度を実施している。(輸送用機械)
- ◆欠員補充のために派遣社員を採用したが、派遣は定着率が悪く、欠員状態の解消に至らない。(プラスチック)
- ◆大卒について岐阜だけでなく愛知の大学も回っているが、今年以上に新卒確保が厳しいと感じる。(金属製品)
- ◆荷物が増えているため、車両を増やしたいと思いドライバーの募集をしているが応募が無くて困っている。ドライバーを雇用できなくては車両を増やすこともできない。(運輸業)
- ◆若い人に入れ替えていかないといけないが、求人への募集が無い。人材を確保するためには給与面の改善も必要と考えるが厳しい。残業ゼロや65歳定年など給与以外の面でも判断してもらえるといい。(製材)
- ◆パート・バイトは確保されているが、専門店の正規社員は不足気味。(大型商業施設)

雇 用(職業別)

- 引き続き各分野において人手不足の状態となっているが、建設・採掘の求人倍率約5.5倍や、介護関連の求人倍率3.6倍など、専門人材の不足が顕著になっている。
- 一方で、事務職の求人倍率は0.5倍に留まるなど求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

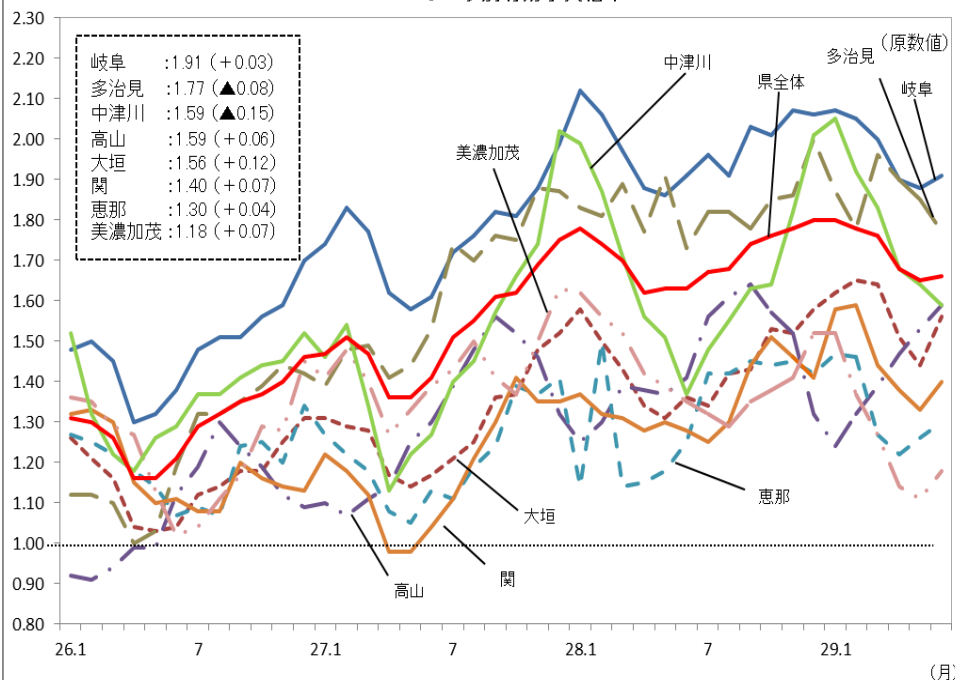


- 6月の主要産業の新規求人数は、前年同月比で金属製品が27.1%、輸送用機械が25.6%、はん用機械が23.9%と主要産業がそれぞれ増加した一方、生産用機械は前年同月比24.6%の大幅な減少となった。



雇用(地域別)

ハローワーク別有効求人倍率



注1: 大垣所分は損斐出張所分を含む 注2: 平成21年4月以降の関所分は岐阜八幡出張所を含む
資料: 岐阜労働局「一般職業紹介状況」

○6月のハローワーク別有効求人倍率は、多治見と中津川で下降したが、そのほかの地域は上昇している。

現場の動き(先月比)

- <ハローワーク岐阜>
 - ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
 - ◆雇用保険受給者数は横ばい。
- <ハローワーク大垣>
 - ◆求人者数はやや増加、求職者数は横ばい。
 - ◆雇用保険受給者数はやや増加。
- <ハローワーク多治見>
 - ◆求人者数、求職者数ともにやや減少。
 - ◆雇用保険受給者数は増加。

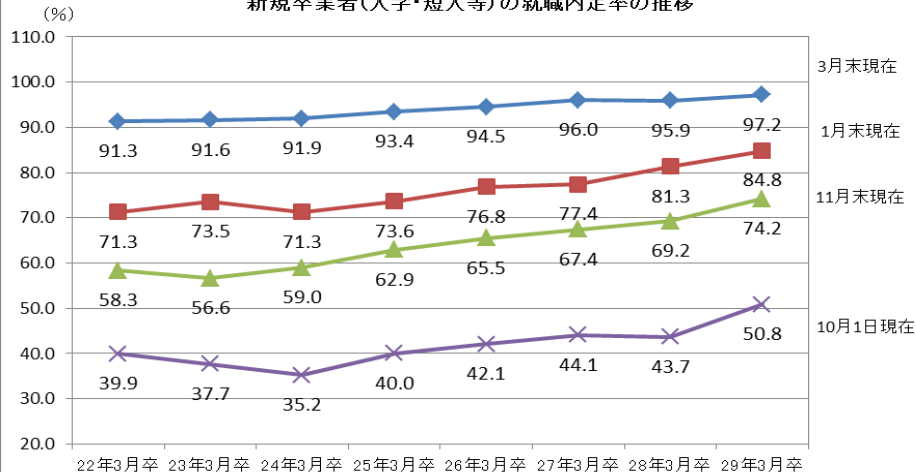
- <ハローワーク高山>
 - ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
 - ◆雇用保険受給者数は増加。
- <ハローワーク恵那>
 - ◆求人者数、求職者数ともにやや減少。
 - ◆雇用保険受給者数は横ばい。
- <ハローワーク関>
 - ◆求人者数はやや増加、求職者数は減少。
 - ◆雇用保険受給者数は増加。

- <ハローワーク美濃加茂>
 - ◆求人者数、求職者数ともにやや減少。
 - ◆雇用保険受給者数は減少。
- <ハローワーク中津川>
 - ◆求人者数は横ばい、求職者数は減少。
 - ◆雇用保険受給者数は減少。
- <窓口の様子> ※前月比
 - ◆多治見、恵那、関で混雑している。
 - ◆そのほかの地域の窓口は先月並み。

雇 用(大学・短大新卒者の就職)

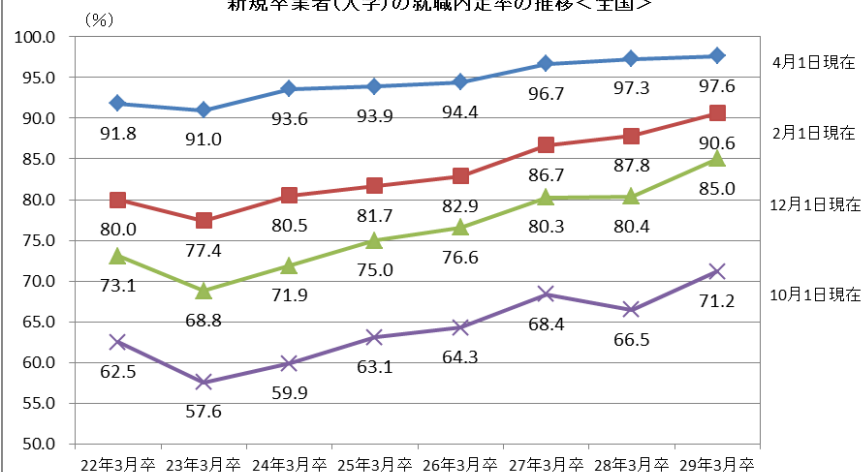
○3月末時点の大学・短大卒業者(平成29年3月卒業)の就職内定率は、前年比1.3ポイント増の97.2%となり、直近8年で最も高い内定率となる。

新規卒業者(大学・短大等)の就職内定率の推移



資料: 岐阜労働局「新規大学等者の就職状況」

新規卒業者(大学)の就職内定率の推移<全国>



資料: 厚生労働省「大学等卒業予定者の就職状況調査」

現場の動き(平成30年3月卒の動き等)

<企業動向>

- ◆大手企業を中心に18年卒採用に関しては、おおむね終息に向かいつつある。6月上旬に最終面接等を組む企業が多く、現在は概ね辞退等に対する調整局面。
- ◆中小企業などは売り手市場による新卒未充足企業が多い印象。

<学生動向>

- ◆6月末時点の内々定率は73.3%。前年同期より8ポイント高く、前年の7月末と同程度で1ヶ月程度早い進捗。
- ◆約半数の学生が6月中に最終面接を受けて、内々定を獲得し、入社予定先を決め、就職活動を終了している。

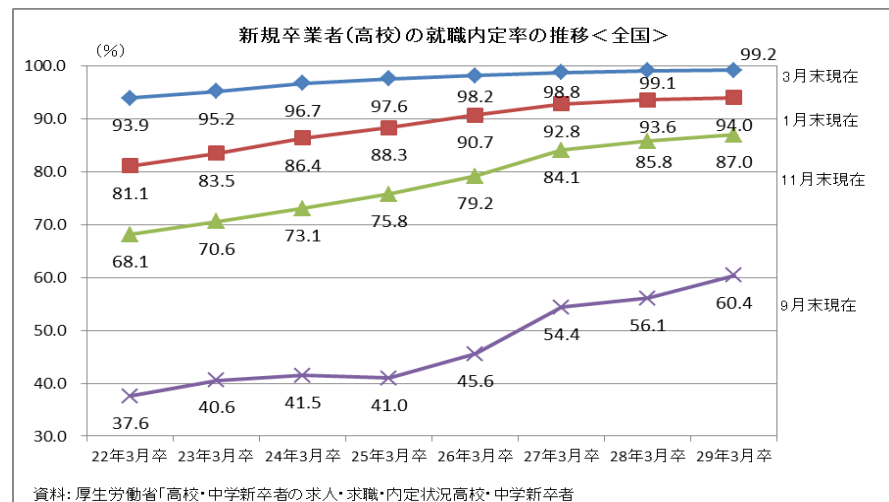
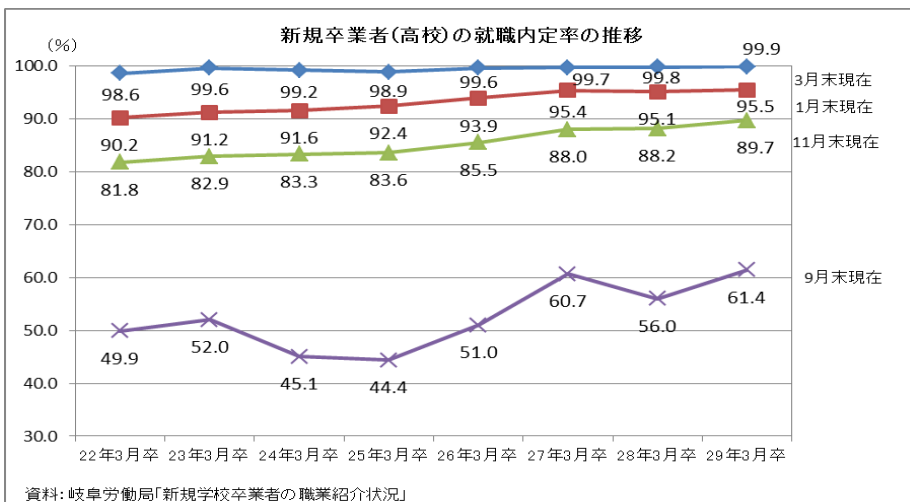
(以上、マイナビレポートより抜粋)

<大学へのヒアリング>

- ◆内々定率は各大学において集計中。企業の受け入れが増えている印象。
- ◆3年生はインターンシップの申し込みを始めているが、昨年よりも動き出しがゆったりとしている状況。

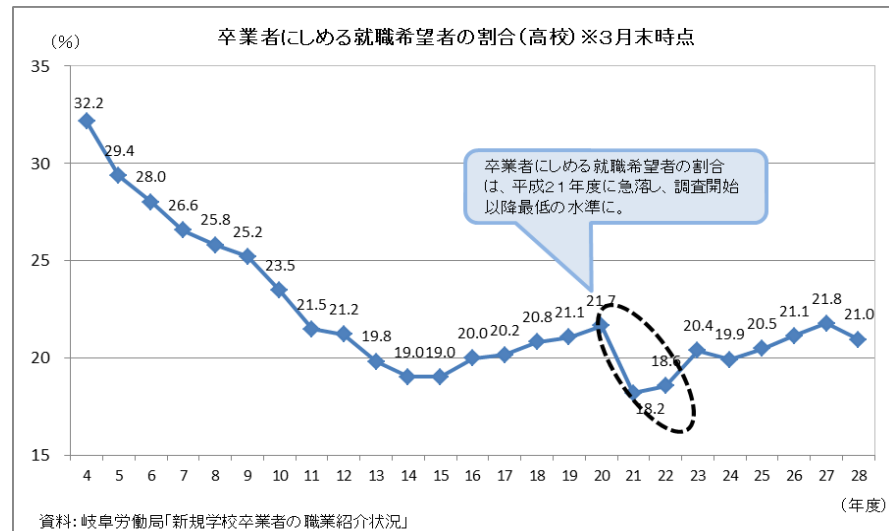
雇 用(高校新卒者の就職)

- 3月末時点の高校卒業者(平成29年3月卒業)就職内定率は、前年比0.1ポイント増の99.9%となり、直近8年で最も高い内定率となると同時に、全国の就職内定率を大きく上回っている。
- 全国の就職内定率は昭和63年以降で最高水準となる。
- 平成28年度卒業者における就職希望者の割合は、4期ぶりに低下した。



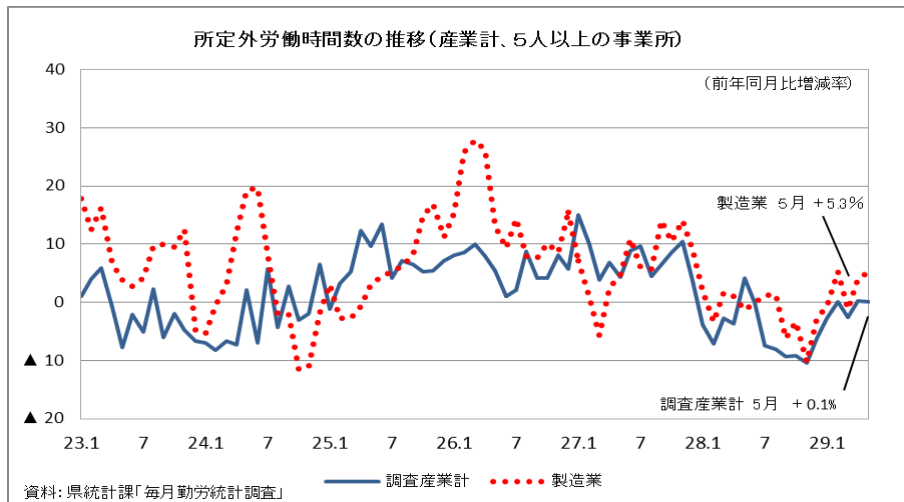
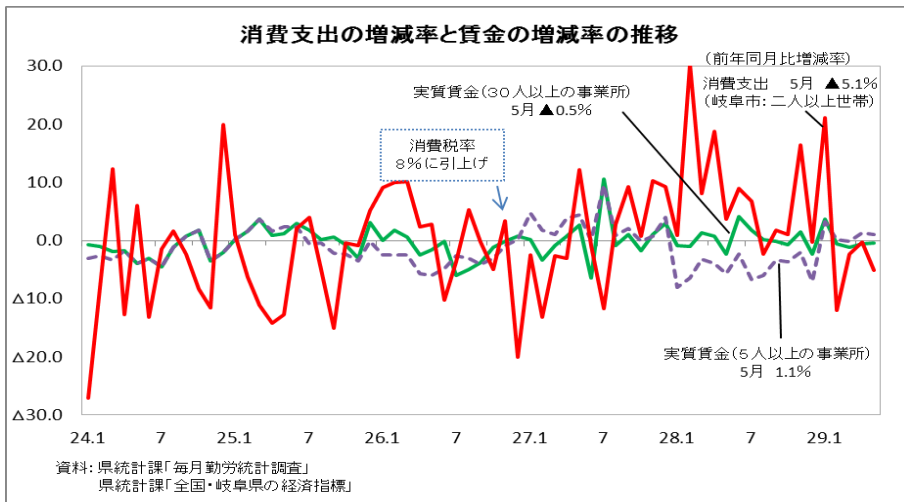
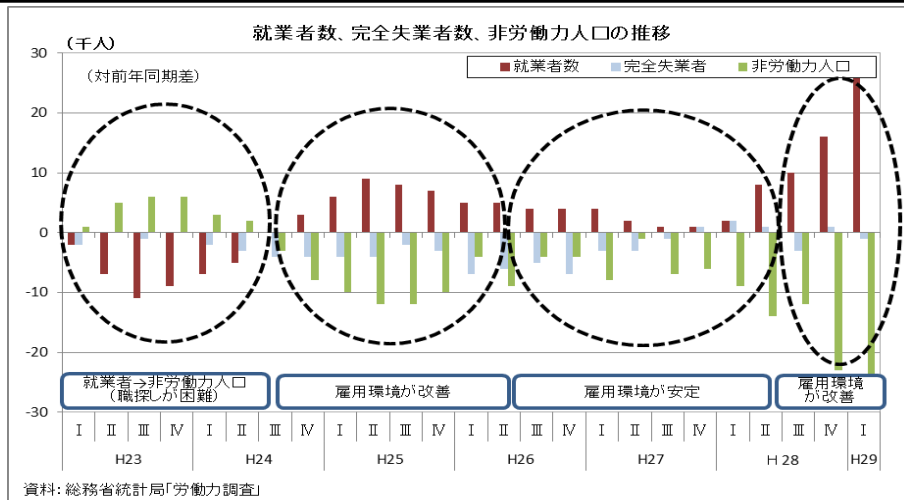
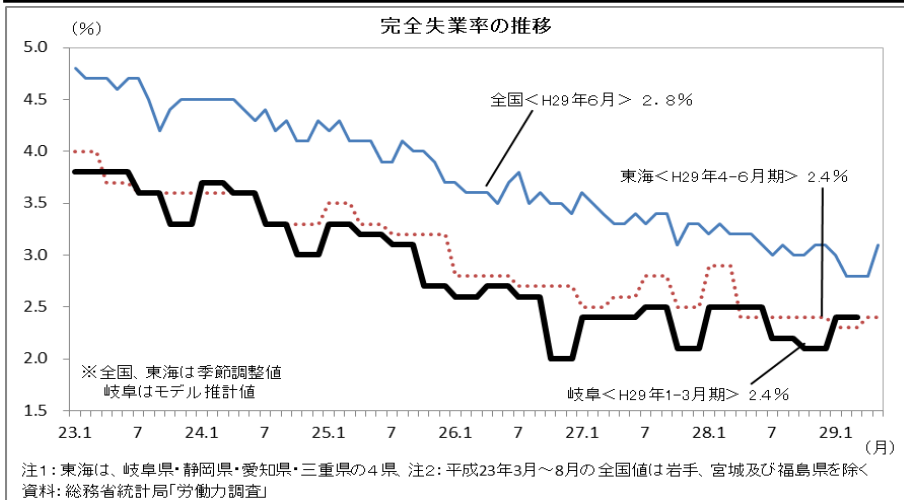
現場の動き(H30.3卒の求人状況)

- <ハローワーク岐阜> 求人は増加。
- <ハローワーク大垣> 求人は増加。
- <ハローワーク多治見> 求人はやや増加。
- <ハローワーク高山> 求人はやや増加。
- <ハローワーク恵那> 求人はやや増加。
- <ハローワーク関> 求人は増加。
- <ハローワーク美濃加茂> 求人は減少。
- <ハローワーク中津川> 求人は減少。



雇 用(完全失業率等)

- 全国の6月の完全失業率は2.8%と前月比0.3%低下。岐阜県の平成29年1-3月期の完全失業率は2.4%と、依然として全国平均と比較して低い水準で推移している。
- 5月の賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比1.1%増加したが、30人以上の事業所は同0.5%減少となる。消費支出については同5.1%減少と4ヶ月連続で前年を下回っている。
- 5月の所定外労働時間数は前年同月比0.1%増加。製造業においては5.3%増加した。



＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、好調であった4月の反動で輸送用機械（主に自動車産業）の生産が落ち着くなどの動きが見られるが、総じて底堅い動きが見られ、全体としては持ち直しの動きが継続している。
- 地場産業は、海外製品等との競合、国内需要の低迷、原材料費高騰による収益の圧迫など厳しい状況が継続している。
- 設備投資は、設備投資意欲が改善し、人手不足への対応のために「生産能力拡大・売上増」、「合理化・省力化」といったニーズが高まる中、国内の金属工作機械受注額が、前年同月比で増加するなど、底堅く推移している。
- 個人消費は、大型小売店等の売上が弱含んでいるが、新車販売台数や軽自動車の販売台数は引き続き堅調な推移を見せており、総じて一部で弱さもみられながらも持ち直しの動きが継続している。
- 観光は、1ヶ月を通して天候に恵まれたことによる屋外施設利用者数の増加などにより、全体として入込客数が増加となった。一方、宿泊施設は、インバウンドの勢いに陰りがみられることなどを要因として大幅な減少となった。
- 企業の資金繰りは、借入難易感が高止まりし、借入しやすい状況が継続するなか、資金繰りDIも改善しており、事故報告は減少しているが、倒産件数が2年半ぶりの高水準となるなど、経営体力に乏しい小規模企業においては厳しい状況が継続している。
- 雇用面は、完全失業率、有効求人倍率、学生就職内定率等の関連指標は、良好に推移しており、総じて県内の雇用情勢は着実に改善している。但し、人材が大手企業に流れ、多くの中小企業では採用難に陥っており、人手不足が慢性化している。